

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物共生総合科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			一般教養	社会人として必要な一般知識、人間性の教育を学ぶ。	1通	40		○			○			○	○
○			パソコン演習	パソコンの基本操作を通じ、情報の整理・加工・発信の技術を身につける。3年次には、実社会で通用するパソコン技術の取得を目指す。	1通 2後 3通	120			○		○				○
○			販売小売学	小売業の役割や法令・接客販売の技術や顧客心理などの基礎知識を学ぶ。	2通	60		○			○				○
○			経営マネジメント	企業や学校、病院などの組織を上手にマネジメント（経営、運営）するための考え方や方法論を学ぶことで、広く個人や組織、社会を見る目を養う。事例にもとづく、具体的な活用に資することに留意する。	4通	60		○			○				○
○			合宿研修 《特別授業》	軽井沢研修所で社会人として基本的な団体行動のマナーや、仲間との共同作業を体験する。	1 2 3 4通	144				○		○	○		
○			動物解剖学	細胞の構造から組織、器官と動物の身体の形や構造を理解する。臨床上必要な犬・猫を基本とし、その他の動物についても犬猫と比較しながら学習する。	1通	80		○			○				○
○			動物生理学	動物の生命維持の仕組みと身体を構成する細胞、組織、器官の機能を理解する。臨床上必要な犬・猫を基本とし、その他の動物についても犬猫と比較しながら学習する。	1通	80		○			○				○
○			動物病理学	動物解剖学・動物生理学を中心とした動物の正常状態の知識を基に身体に起こる異常を認識できるよう、基礎病変の概念、原因、病理学的所見など疾患理解の基礎を学習する。	1通	40		○			○				○
○			動物疾病学	犬猫を中心に主要な疾病の機序、症状、診断、治療法などを学ぶ。健康への回復を援助するため疾病に対する看護のポイント、健康の保持と促進ができるよう疾病予防の知識を学習する。	1 2通	240		○			○				○
○			動物薬理学	動物看護に必要な薬物の作用や機序、体内動態、代謝、排泄を理解する。臨床で使用される代表的な薬剤について臨床応用及び副作用について学ぶ。	2通	40		○			○				○

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物共生総合科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			公衆衛生・感染症学(寄生虫含む)	病原体の分類、性状等を理解し、感染や病害発生メカニズムを学習する。動物から人間へ感染する疾病の理解と予防、対策を含めた衛生管理の知識を学ぶ。主に犬猫に感染する寄生虫の形態や生活環など基礎を理解し、検査方法および虫卵の鑑別についても習得する。	1 2 通	100		○			○			○	○
○			病原体・衛生管理学	公衆衛生・感染症学で学ぶ病原体の知識を基に、これらの病原体によって引き起こされる感染症の予防、特に臨床に必要なワクチンについて理解する。	1 通	40		○			○		○		
○			動物栄養健康管理学	動物の健康管理や飼育法の知識と、動物に必要な基本的な栄養素及びライフステージや疾患別の栄養管理について理解し、飼主に対する的確な指導やアドバイスが出来るよう学習する。	1 2 通	100		○			○			○	
○			動物関連法令	動物看護師の法規上での職域を認識するため獣医療関連・薬物関連の法令を理解する。また動物の福祉と安全な社会のために公衆衛生・環境関連、その他身体障害者補助犬法について学習する。	2 通	40		○			○		○		
○			動物繁殖学	動物の発情、交配、妊娠、出産、産後の管理などを、犬や猫を中心に動物ごとに比較しながら学ぶ。また、繁殖上の疾病とその予防法及び治療について理解する。	2 後	20		○			○		○		
○			動物行動・動物人間関係学	犬や猫の起源・生態、品種による特徴を知る。行動様式、学習原理を基に、適正飼養と基本的なしつけ、問題行動を理解し飼主への指導が出来るようにする。また動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について理解する。	1 2 通	100		○			○		○		
○			動物福祉学	生命倫理の基本原則を理解し、特に獣医療における動物愛護・福祉の考え方を総合的に学習する。	2 通	40		○			○		○		
○			飼養管理学	動物の福祉や人と動物の関係を踏まえ、実験動物・産業動物・展示動物の社会的な役割と野生動物の生態及び保護・環境保全に関する課題と取組を認識する。	1 通	40		○			○		○		
○			エキゾチックアニマル学	爬虫類・鳥類・げっ歯類などの動物の生態を理解したうえで適正な飼養、疾病、治療などを学ぶ。	2 通	40		○			○			○	
○			動物看護学	動物看護の基本となる獣医療倫理、看護理論や動物看護過程に沿った看護計画・記録など学ぶ。主に犬猫の若齢から高齢にいたる身体的・精神的変化に応じた管理・予防、看護、介護及び終末期看護に関連したグリーフケアを理解し、飼主への指導とケアに活かす。	1 2 通	80		○			○		○		

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物共生総合科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物臨床検査学	生体より得られる血液・糞便・尿・細胞などを用いた検査から生体に起こる変化を検出し、診断へと導くことの意義や検体の扱いについて理解する。生体検査としてX線検査、超音波検査、心電図検査、内視鏡検査、CT及びMRI検査の特徴と検査に関わる基本事項を学ぶ。	1通	40		○			○			○	○
○			救急救命学	心肺蘇生（CPR）法に関連した緊急時の動物の評価、蘇生法、モニタリング、救急薬物について習得する。各救急疾患の原因・症状・治療と処置について学習する。	3後	20		○			○			○	
○			動物美容学（器具演習）	各犬種のトリミングに必要な技法を細部にわたって学ぶ。	1通	40		○			○			○	
○			動物介在実習概論	動物介在活動における概論および、動物介在活動犬のしつけ・トレーニング方法について学ぶ。また、ハンドラーの役割や心構えなどを習得する。	3後	40		○			○			○	
○			アニマルアロマ概論	ペットに対してのアロマセラピーの基礎および、精油の効用を学ぶ。	3後	20		○			○			○	
○			コミュニケーショントレーニング	実社会で必須な話す・聴く・書くなどコミュニケーション技術の基礎を身につけ、身だしなみやふるまいを含めた飼主対応やスタッフ間での接し方を学ぶ。カルテをはじめとした情報の記録・管理、電話対応、会計業務などの院内業務について習得する。また、対人関係スキルの向上を目指す。	1 2 3 4通	260				○	○			○	
○			動物行動実習	犬の行動様式、学習原理を理解したうえで、基本的なしつけトレーニングを実践する。診療時における誤った行動の学習を防ぎ、適切な対応ができるようになる。また飼主が犬との良い関係が構築されるよう、トレーニング法と問題行動の予防方法を説明・指導できるように実践的に学習する。	1 2 3通	320				○	○			○	○
○			動物美容実習	器具の使い方、各犬種のスタンダードを学び、実際に犬に触れて基本的なグルーミングを習得する。	1 2通 3前	500				○	○			○	
○			動物看護実習	動物の状態を的確に把握する能力と臨床で必要な看護技術を身につける。	1通 2前 3後	200				○	○			○	○
○			動物臨床検査実習	血液検査・糞便検査・尿検査などの診断へと導く重要な検査についての意義を理解し、技術を習得する。	1 2通 3後	240				○	○			○	○

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物共生総合科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			外科動物看護実習	外科手術に伴う滅菌消毒操作、手術器具の種類と用途、麻酔モニタリングについて習得する。術前から術後にいたる周術期看護を理解し実践する。	3通	120				○	○		○		
○			建築・住環境実習	動物の行動学に基づき、人と動物が快適に生活するための知識を習得する。また、福祉と動物と住環境を考え、福祉住環境コーディネーター3級の合格を目指す。	2後3通	240				○	○			○	○
○			ホームヘルパー理論・動物介在実習	高齢者や障害を持つ人の在宅介護および動物介在活動に必要な専門知識と技術を身につけ、福祉に関する総合的能力を理解し、動物業界における福祉の必要性を学ぶ。また、介護職員初任者研修の取得を目指す。	3通	320		△		○	○			○	
○			卒業研究実習	4年間の修了学年として、個人またはグループでテーマを決め、調査・研究し、その成果をまとめて発表する。	4通	120				○	○			○	
○			動物管理実習	動物の身体的・心理的健康に努め、環境整備、衛生管理を実践し適正飼養の知識と技術を体得する。また動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養い、飼主への指導に活かす。	123通	120				○	○			○	
○			病院実習	動物病院の実務を体験し、動物関連の業務及び動物の習性・特徴等を習得する。併せて、通常の授業では学ぶことの出来ない社会の規律を体得する。	123通	135				○		○	○		○
	○		動物美容実習 《必修選択専門科目》	動物美容実習を通じてグルーミングの基本から最新の技術を取り入れた応用までを学ぶ。	4通	720				○	○			○	
	○		実務研修 《必修選択専門科目》	今まで学んできたことを活かし、継続的に動物関連施設で実務経験を体験する。また、通常の授業では学ぶことのできない、社会の規律を体得する。	4通	240				○	○			○	
	○		応用動物看護実習《必修選択専門科目》	手術や外傷で落ちた運動機能・筋力を回復し、QOL（生活の質）を改善できるようにリハビリテーションに関する技術、マッサージ療法や運動療法について習得する。	4通	80				○	○			○	
	○		実践小動物看護実習 《必修選択専門科目》	校有動物の診療補助をとおり、臨床で求められる応用力と正確性・迅速性を身につける。	4通	200				○	○			○	

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物共生総合科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		外科・手術実習《必修選択専門科目》	外科動物看護実習を基に臨床で求められる応用力と正確性・迅速性を身につける。動物看護過程に沿った周術期看護の計画と実践を行なう。	4通	120			○	○		○			
	○		臨床検査・画像診断実習《必修選択専門科目》	動物の治療や外科手術で必要となるレントゲンの撮影法・診断法を実際の実習を通して習得する。	4通	80			○	○		○			
	○		エキソチックアニマル実習《必修選択専門科目》	爬虫類・鳥類・げっ歯類などの動物の生態を理解したうえで適正な飼養、疾病、治療、看護などを学ぶ。	4通	80			○	○		○			
	○		しつけトレーニング実習《必修選択専門科目》	今まで学習した訓練手法を元に、学内でのしつけ教室の開講・運営を目指す。	4通	160			○	○		○			
	○		実務研修《必修選択専門科目》	今まで学んできたことを活かし、継続的に動物関連施設で実務経験を体験する。また、通常の授業では学ぶことのできない、社会の規律を体得する。	4通	240			○	○		○			
	○		建築デザイン《必修選択専門科目》	3年次に学習した内容をもとに、動物との共生を考えた住宅や公共施設の設計・提案を方法について学ぶ。	4通	240			○	○		○			
	○		しつけトレーニング実習《必修選択専門科目》	今まで学習した訓練手法を元に、学内でのしつけ教室の開講・運営を目指す。	4通	240			○	○		○			
	○		動物介在実習《必修選択専門科目》	動物が人に与える癒し効果について学び、ボランティア活動など積極的に社会に貢献できる手法・心を習得する。	4通	240			○	○		○			
	○		実務研修《必修選択専門科目》	今まで学んできたことを活かし、継続的に動物関連施設で実務経験を体験する。また、通常の授業では学ぶことのできない、社会の規律を体得する。	4通	240			○	○		○			
	○		しつけトレーニング実習《必修選択専門科目》	今まで学習した訓練手法を元に、学内でのしつけ教室の開講・運営を目指す。	4通	600			○	○		○			

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物共生総合科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
	○		アシスタント実習《必修選択専門科目》	これまで学んできたしつけ、トレーニング学・実習で得たものをより多くの犬を使い理解度を深める。また、アシスタントとして人に伝えるコミュニケーション能力の向上を目指す。	4 通	120			○	○		○			
	○		実務研修《必修選択専門科目》	今まで学んできたことを活かし、継続的に動物関連施設で実務経験を体験する。また、通常の授業では学ぶことのできない、社会の規律を体得する。	4 通	240			○	○		○			
		○	国内研修	国内の動物関連施設を実際に訪れ、学内では経験できないことを自ら進んで体験し、動物分野の理解をより一層深める。	1 2 3 4 通	144			○		○	○			
		○	海外研修	動物分野において先進国である欧米諸国の動物関連施設を訪れ、最先端の技術・施設等を目の当たりにすることで見識を深める。また、日本との違いを直接肌で感じることで自己向上意欲を高め、今後に役立てる。	1 2 3 4 通	288			○		○	○			
		○	校外研修	様々な動物関連施設の実務を体験し、動物関連の業務及び動物の習性・特徴等を習得する。併せて、通常の授業では学ぶことのできない社会の規律を体得する。	1 2 3 4 通	168			○		○	○		○	
合計					55科目		4800単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
①指定の課程において履修すべき全科目に合格すること。②指定の課程において所定の技能検定試験に合格し、登録すること。③履修期間の出席日数は、80%以上であること。④学習態度を勘案し、人格品性共に社会人としての資質を有すると認められること。⑤納入すべき所定の費用を期日までに全納すること。 (留意事項)	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。